

平成30年度に実施した千葉県計画に関する事後評価一覧

【大きく前進：目標の達成及び策定値から目標値の増加分を年数で割り返したときの数値に達成している(※)】【前進：目標の8割程度達成及び策定値から目標値の増加分を年数で割り返したときの数値に8割程度達成している】【改善傾向：目標に向け改善】【未改善：目標に向け改善せず】【今後評価：今後結果が公表】  
 ※例)計画策定10(H29)30年度結果20(H30)目標値40(H32)の場合、計画策定値から目標値の増加分が40-10=30で計画策定から3年後の目標なので、30÷3=10であり、30年度結果は計画策定から10増加しているため、【大きく前進】とする

全体目標	各目標における評価指標	目標の達成状況			評価	平成30年度実施事業ごとに定めた目標の達成状況、事業の実施状況、各目標に対する見解
		計画策定時	30年度結果	目標値		
医療機関の役割分担の促進①	自分が住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると感じている県民の割合	63.6% (H29年)	65.1% (H30年)	66.0% (R2年)	大きく前進	【事業ごとの目標の達成状況】事業総数 6 事業 アウトプット目標 総数 6 (達成 1 概ね達成 1 一定程度達成 1 未達成 3 今後評価 0 ) 【事業の実施状況】 ・がん診療施設・設備整備を実施した。(2箇所) ・院内助産所・助産師外来設備整備を実施した(1箇所) ・救急基幹センター体制整備事業(3箇所) 【目標①医療機関の役割分担の促進に対する見解】(国に事後評価を提出するにあたっての千葉県としての自己評価) ・地域包括ケア病棟等の整備が進み、病床機能分化が一定程度進んだ。 ・引き続き次年度計画において、改善策の検討を図りながら、病床の機能分化・連携事業を推進するための基盤整備事業を継続し、重点的に実施する。
	地域包括ケア病棟の病床数(人口10万対)	26.0床 (H30年)	28.9床 (H31年)	41.4床 (R5年)	前進	
	心肺停止状態で見つかった者の1ヵ月後の生存率	19.0% (H28年)	14.9% (H29年)	20%以上 (R5年)	未改善	
	分娩実施施設数(15~49歳女子人口10万対)	7.8施設 (H26年)	7.7施設 (H29年)	増加 (R5年)	未改善	
地域包括ケアの推進②	介護が必要になっても自宅や地域で暮らし続けられると感じる県民の割合	34.0% (H29年)	32.3% (H30年)	50.0% (R2年)	未改善	【事業ごとの目標の達成状況】事業総数 13事業 アウトプット目標 総数 13(達成 8 概ね達成 1 一定程度達成 3 未達成 1 今後評価 0 ) 【事業の実施状況】 ・在宅医療に関わる医療・福祉関係者による協議会の開催による連携強化や地域リハビリテーション連携体制の構築を図った。 ・在宅歯科に必要な医療機器の設備整備(29施設)に助成し、連携室を設置し窓口相談、歯科診療所等の紹介を行った。 ・訪問看護に関する普及啓発を行うとともに、訪問看護ステーションに関する相談に対応する訪問看護推進事業を実施した。 ・医師等を対象に在宅医療を実施するための動機づけ、必要な知識、在支診の経営等に関する研修及び在支診の経営等について個別にアドバイザーの派遣事業を実施した。 ・県民に対してオール千葉方式の啓発ができるように県内の医療・介護従事者向けの研修や講演会、住民向けのイベント開催等を通して、周知を図った。 【目標②地域包括ケアの推進に対する見解】(国に事後評価を提出するにあたっての千葉県としての自己評価) ・在宅医療の提供体制の整備では、訪問看護ステーションや在宅療養支援歯科診療所の数に大きな前進や改善傾向がみられ、一定程度の整備が進んだ。 ・次年度計画において引き続き地域包括ケアの推進の検討を図り在宅医療の提供体制整備を重点的に進めていく。
	退院支援を実施している診療所数・病院数	125箇所 (H27年)	133箇所 (H28年)	増加 (R2年)	大きく前進	
	在宅患者訪問診療実施診療所数・病院数	767箇所 (H27年)	737箇所 (H28年)	976箇所 (R2年)	未改善	
	在宅患者訪問診療(居宅)実施歯科診療所数	342箇所 (H26年10月)	348箇所 (H29年10月)	421箇所 (R2年)	改善傾向	
	在宅患者訪問薬剤管理指導員出薬局数	1,819箇所 (H29年4月)	1,872箇所 (H31年3月)	1,875箇所 (R2年)	大きく前進	
	訪問看護ステーション数	308箇所 (H28年10月)	338箇所 (H29年10月)	395箇所 (R2年)	大きく前進	
	機能強化型訪問看護ステーション数	18箇所 (H29年10月)	23箇所 (H30年10月)	28箇所 (R2年)	大きく前進	
	在宅療養支援歯科診療所数	358箇所 (H30年3月)	387箇所 (H31年3月1日現在)	416箇所 (H30年)	改善傾向	
	圏域支援拠点の機能を補完する協力機関の数	136箇所 (H29年)	155箇所 (H30年)	150箇所 (H30年)	大きく前進	
	訪問看護ステーション看護職従事者数(介護サービス施設・事業所調査)	1,678人 (H28年)	1,826人 (H29年)	1,878人 (H30年)	大きく前進	
	千葉県医療的ケア児等支援地域協議会の開催		1回 (H30年)	2回 (H30年)	改善傾向	
	かかりつけ薬剤師・薬局の定着度	39.5% (H29年)	35.8% (H30年)	63% (R5年)	未改善	
	かかりつけ医の定着度	57.8% (H28年)	55.5% (H30年)	63% (R5年)	未改善	
KDB データの解析を実施することにより、地域ごとの具体的な在宅医療受給状況を分析し、市町村ごとに在宅医療提供状況を提示する。		54市町村	54市町村	大きく前進		

全体目標	各目標における評価指標	目標の達成状況			評価	平成30年度実施事業ごとに定めた目標の達成状況、事業の実施状況、各目標に対する見解
		計画策定時	30年度結果	目標値		
目標③ 医療従事者の確保・定着	医師人数	11,843人 (H28年)	—	増加 (H30年)	今後評価	<p>【事業ごとの目標の達成状況】事業総数 11事業</p> <p>アウトプット目標 総数 11 (達成 5 概ね達成 3 一定程度達成 2 未達成 1 今後評価 0 )</p> <p>【事業の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研修医を対象とした合同就職説明会や研修を実施し、臨床研修修了者の県内定着率の向上に向けた取り組みを実施した。</li> <li>女性医師就労支援の取組みに必要な経費を支援し、15医療機関へ助成を実施した。</li> <li>看護師等学校養成所への運営費の支援を実施し、看護師養成所の県内で看護業務に従事しようとする者に対して、修学資金の貸付を実施した。また、看護学生を受け入れる実習病院の運営費の支援を実施した。</li> <li>未就職看護職者の再就業に向けた講習会を開催した。</li> <li>看護職員の離職防止等を図るため、新人看護職員等に対する研修を実施した。</li> <li>病院内保育所の設置を行う医療機関に対し助成を実施した。</li> <li>歯科衛生士の復職支援研修を実施した。</li> </ul> <p>【目標③医療従事者の確保・定着に対する見解】(国に事後評価を提出するにあたっての千葉県としての自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護職員数や初期臨床研修修了者の県内定着率については改善傾向であるが、医療従事者の確保定着に向けて更なる取組が必要である。</li> <li>引き続き次年度計画において、改善策の検討を図りながら、医師及び看護師確保対策事業を継続し、重点的に実施する。</li> </ul>
	看護職員数	55,759人 (H28年)	58,508 (H30年)	増加 (H30年)	大きく前進	
	初期臨床研修修了者の県内定着率	45.9% (H30年3月修了者)	54.5% (H31年3月修了者)	80.0% (R5年3月修了者)	改善傾向	
	看護職員の離職率	11.5% (H28年)	11.7% (H29年)	低下 (R5年)	未改善	
	看護師等学校養成所卒業生の県内就業率	67.9% (H30年3月卒業生)	66.9% (H31年3月卒業生)	68.8% (R6年3月卒業生)	未改善	
	看護職員の再就業者数(県のナースセンター事業によるもの)	290人 (H29年)	314名 (H30年)	増加 (H30年)	大きく前進	
	臨床研修医マッチ率	84% (H29年)	89.6% (H30年)	85%以上 (H30年)	大きく前進	
	県内医療機関従事医師数の女性医師割合	21.1% (H28年)	—	21.9% (H30年)	今後評価	
	就業歯科衛生士数	4,965人 (H28年度)	—	5,280人 (H30年度)	今後評価	
	新人看護職員の離職率	7.5% (H28年度)	5.8% (H29年度)	7.0% (R5年度)	大きく前進	
目標④ 地域医療の格差解消	医療施設従事医師数(産科・産婦人科)(15~49歳女子人口十万対)	35.4人 (H28年)	—	39人 (R4年)	今後評価	<p>【事業ごとの目標の達成状況】事業総数 9事業</p> <p>アウトプット目標 総数 9 (達成 4 概ね達成 3 一定程度達成 2 未達成 0 今後評価 0 )</p> <p>【事業の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医師不足病院医師派遣促進を実施し、11.7名(常勤換算)の医師派遣を行った。</li> <li>産科医確保・育成のために、産科医等の処遇改善等のための分娩手当や研修手当を支給する医療機関に対して、その手当の一部を助成した。</li> <li>新生児医療に従事する医師に対して処遇改善等のための手当を支給する医療機関に対して、その手当の一部の助成を実施するとともに、小児救急医療の拠点となる病院の体制整備を実施した。また小児救急電話相談の充実により、負担軽減を図った。</li> </ul> <p>【目標④地域医療の格差解消に対する見解】(国に事後評価を提出するにあたっての千葉県としての自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治体病院の常勤医師数については前進しているが、地域医療の格差の解消に向けて更なる取組が必要である。</li> <li>引き続き、医師数の動向等を注視しながら地域医療の基盤を支える自治体病院の医師不足解消や周産期医療、小児救急医療の体制整備を継続して、重点的に実施する。</li> </ul>
	医療施設従事医師数(小児科)(15歳未満人口10万対)	85.8人 (H28年)	—	97人 (R4年)	今後評価	
	自治体病院の常勤医師数	890人 (H29年)	901人 (H30年)	902人 (H30年)	前進	
	【産科医等確保支援事業】 手当支給施設の産科・産婦人科医師数	333人 (H29年)	311人 (H30年)	現状を維持	未改善	
	分娩1000件当たりの分娩取扱機関勤務産婦人科医師数	10.0 <sup>(H28年調査時医師数をH28年度の分娩件数で除算)</sup>	—	10.8 (H30年)	今後評価	
	【産科医等育成支援事業】 手当支給施設の産科・産婦人科医師数	18人 (H29年)	19人 (H30年)	現状を維持 (H30年)	大きく前進	
	新生児死亡率	1.0 (H28年)	0.9 (H29年)	0.9 (H30年)	大きく前進	
	地域で小児救急に携わる初期医療機関等の数	62 (H28年)	59 (H29年)	65 (H30年)	未改善	
	小児救急拠点病院への小児患者受入数	21,462人 (H29年)	19,854人 (H30年)	21,500人 (H30年)	未改善	
	小児二次救急医療機関数	34 (H29年)	34 (H30年)	維持 (H30年)	大きく前進	
電話相談により削減できた夜間小児救急の受診件数	25,000件 (H28年)	32,173件 (H30年)	28,000件 (H30年)	大きく前進		
電話相談による夜間・休日の受診数の減少	—	12,565件 (H30年)	30,000件 (H30年)	改善傾向		

全体目標	各目標における評価指標	目標の達成状況			評価	平成30年度実施事業ごとに定めた目標の達成状況、事業の実施状況、各目標に対する見解
		計画策定時	30年度結果	目標値		
目標⑤ 介護施設等の整備促進	介護が必要になっても自宅や地域で暮らし続けられると感じる県民の割合	34.0% (H29年)	32.3% (H30年)	50.0% (R2年)	未改善	【事業ごとの目標の達成状況】事業総数 7 事業 アウトプット目標 総数 7 (達成 1 概ね達成 0 一定程度達成 1 未達成 5 今後評価 0 ) 【事業の実施状況】(補助施設数) ●介護基盤整備事業 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所(1箇所) ●広域型施設等の開設準備支援等事業 広域型特別養護老人ホーム(7箇所) ●地域密着型施設等の開設準備支援等事業 小規模多機能型居宅介護事業所(2箇所) 施設内保育施設(1箇所) 訪問看護ステーション(5箇所) 【目標⑤ 介護施設等の整備促進に対する見解】(国に事後評価を提出するにあたっての千葉県としての自己評価) ・介護施設等の整備については、地域密着型特別養護老人ホームなど増加傾向であるが、引き続き、目標の達成に向けて、次年度以降においても市町村等と連携しながら介護施設等の整備の推進を図っていく。
	「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」を実施している市町村数	20市町村 (H29年)	20市町村 (H30年)	35市町村 (R2年)	未改善	
	広域型特別養護老人ホーム	24,491床 (H29年)	25,428床 (H30年)	28,308床 (R2年)	改善傾向	
	地域密着型特別養護老人ホーム	1,817床 (H29年)	1,904床 (H30年)	2,156床 (R2年)	改善傾向	
	介護老人保健施設	15,694床 (H29年)	15,587床 (H30年)	16,209床 (R2年)	未改善	
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	622人/月 (H29年)	694人/月 (H30年)	1,591人/月 (R2年)	改善傾向	
	認知症対応型サービスセンター	12,909回/月 (H29年)	15,766回/月 (H30年)	17,614回/月 (R2年)	大きく前進	
	認知症高齢者グループホーム	6,675人/月 (H29年)	6,863人/月 (H30年)	7,747人/月 (R2年)	改善傾向	
	小規模多機能型居宅介護事業所	2,329人/月 (H29年)	2,487人/月 (H30年)	3,656人/月 (R2年)	改善傾向	
	看護小規模多機能型居宅介護事業所	184人/月 (H29年)	293人/月 (H30年)	784人/月 (R2年)	改善傾向	
目標⑥ 介護従事者の確保・定着	介護職の就労者数	76,792人 (H28年)	79,167人 (H29年)	94,435人 (R2年)	改善傾向	【事業ごとの目標の達成状況】事業総数 30事業 アウトプット目標 総数 30 (達成 17 概ね達成 6 一定程度達成 5 未達成 2 今後評価 0 ) 【事業の実施状況】 ・介護職員の資質向上のために、喀痰吸引等指導者養成研修等や喀痰吸引研修の実施に必要な器具の整備費用に対する助成を行った。 ・外国人の就業促進を図るため、事業者を対象にした受入準備に向けた説明会を開催した。 ・介護サービスの向上と介護現場への定着を図るため、外国人介護福祉士等を対象に語学研修を行った。 【目標⑥ 介護従事者の確保・定着に対する見解】(国に事後評価を提出するにあたっての千葉県としての自己評価) ・介護職の就労者数の増加、介護職員の離職率の低下に向け、引き続き人材定着事業を実施していく。 ・介護従事者の確保・定着に向けて、多くの関連事業を実施しており、引き続き、改善策の検討を図りながら、介護従事者の確保・定着事業を継続し、重点的に実施する。
	介護職員の離職率	15.4% (H29年)	16.9% (H30年)	低下 (H30年)	未改善	
	介護福祉士養成校の入学者数	232人 (H30年4月)	250人 (H31年4月)	増加 (H31年4月)	大きく前進	
	主任介護支援専門員(主任ケアマネジャー)の養成	1,998人 (H29年)	2,099人 (H30年)	2,400人 (R2年)	改善傾向	
	介護予防・生活支援総合事業における「多様なサービス」(訪問型及び通所型)の提供事業者数の増	330箇所 (H29年)	531箇所 (H31.3.31)	360箇所 (H30年)	大きく前進	
	日本語研修の内容が、今後介護の職場又は就労に役立つと回答した者の割合	—	100%	80%以上	大きく前進	
	県内介護福祉士養成校新規外国人受入数	64人 (H30年4月)	89人 (H31年4月)	増加 (H31年4月)	大きく前進	
	実務従事者対象の専門研修(法定研修)の受講者アンケートにおいて各項目で「よく理解できた」「理解できた」と回答する者	—	75%以上	75%以上	大きく前進	
	認知症サポート医認定数	387人 (H29年)	440人 (H30年)	420人 (H30年)	大きく前進	
	かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者	1,113人 (H29年)	1,152人 (H30年)	1,300人 (H30年)	改善傾向	
	病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修受講者数	2,595人 (H29年)	3,428人 (H30年)	2,900人 (H30年)	大きく前進	
	初期集中支援チームが整備されている市町村数	—	54市町村 (H30年)	54市町村 (H30年)	大きく前進	
	地域密着型サービス登録事業者数	892 (H29年)	909 (H30年)	増加 (H30年)	大きく前進	
	市民後見人の選任数の増加	13名増 (H29年)	10名増 (H30年)	増加 (H30年)	大きく前進	
	地域ケア推進会議に取り組む市町村数の増	50市町村 (H29年)	51市町村 (H30年)	増加 (H30年)	大きく前進	
	すべての市町村が在宅医療・介護連携推進事業に取り組んでいる。	—	54市町村 (H30年)	54市町村 (H30年)	大きく前進	
	地域包括ケア体制の構築について、理解できたと回答した者の割合	—	80%	90%以上	前進	
	高齢者の社会参加やサービスの担い手育成が図られる。	—	担い手養成人員684人 (H30年)	担い手養成人員400人 (H30年)	大きく前進	
【介護支援専門員地域同行型研修事業】研修参加者へのアンケートにおいて、学びたい事をどれくらい習得できたか「十分に習得できた」、「一定程度習得できた」と回答した者の割合	—	アドバイザー:85.7% 受講者:80.6%	アドバイザー:85%以上 受講者:85%以上	前進		
認知症コーディネーター養成数	—	年間63名	年間50名	大きく前進		
研修会(認知症地域支援推進員研修事業)の参加者数200名	—	189名	200名	前進		